

第3回 福岡県環境審議会 環境総合ビジョン専門委員会 議事要旨

1 開催概要

日時： 令和3年9月6日（月）15:00～17:00

場所： Web開催（事務局：福岡県庁 特1会議室）

出席： 浅野直人委員長、伊藤洋委員、伊澤雅子委員、岩熊志保委員、佐藤しのぶ委員
馬奈木俊介委員

2 議題

- (1) 第四次計画の進捗報告
- (2) 福岡県環境総合ビジョン素案 第3版について
- (3) 各柱の副題（仮案）について

3 議事概要

(1) 第四次計画の進捗報告

- （事務局から資料4を用いて説明）

（委員質問・意見）

- 資料4のp7最後の2件（エコクラブ市町村事務局登録数と環境関連イベント数）については、達成困難で仕方がない状況だと思う。p1のエネルギー消費量関係については、評価欄に「冬の平均気温が例年と比べ高くなったため」とあるが、外乱要因によって達成できるように読めてしまうので、評価としてはもう一言入れた方がよい。【伊藤委員】
- 単年度の評価としてはよくある書き方で、国も使っており、事実としてもそうなのだろうと思う。ただ、4年間通してもそう言えるか。【浅野委員長】
- 4年間については、外乱要因の記載をしなくても努力の結果としてエネルギー消費量が低減していると評価できる。なお、前半①は2018年度（単年度）についての記載である。【環境保全課長】
- p3の柱3については、意識の指標であり、現実を表す指標ではない。ただし、（次期計画に用いる指標について）現段階ですぐに提案できる代替のアイデアはない。【伊澤委員】
- p3、p7のホームページアクセス数について、ツイッター等が主な情報源になってきており、次期計画の目標としては、適切でなくなるかもしれない【佐藤委員】
- p7の環境イベントについては、今後を見据えてWebでできる方法を考えていく必要がある。【岩熊委員】

(2) 環境総合ビジョン素案第3版について

- （事務局から資料1～3、5を用いて主な修正点について説明）

（委員質問・意見）

全般、第1章、第2章

- 特に意見なし。

第3章 柱1（脱炭素）

- p17) 適応策の項目で、自然生態系分野が書かれているが、どのような位置付けでここに入れられたのか。【伊澤委員】
- 気候変動があれば生態系に影響を与えるはずだから対応しなければならないが、変化が生じているかも把握できていないので、まずは調査を行うということで適応策に位置付けている。【浅野委員長】
- 記載内容については、「里地里山の生態系における野生動物の～」ではないかと思うが、柱3のところで議論する。【伊澤委員】
- p15) 「交通円滑化」とは、交通渋滞緩和と同じ意味か。一般には分かりにくい表現ではないか。【伊藤委員】
- 普通は、交通「流」円滑化という。【浅野委員長】
- 「都市圏の交通円滑化」という言い方はある。【馬奈木委員】
- 担当部署に確認が必要だが、この記載は自動車を想定している。また、都市圏だけに絞った施策ではない可能性がある。【事務局】
- その考えでは狭すぎる。「交通システムの円滑化」で検討すること。【浅野委員長】
- p17) 【気候変動の・・・(適応策)】の下に(気候変動の影響と・・・)と、かっこ書きが2行続くので体裁を工夫してほしい。【伊藤委員】
- 他になければ、柱1の重点プロジェクトや指標については保留として、他計画がまとまり次第、引用することとし、次回環境審議会に示す案は、委員長に一任いただいでよいか。【浅野委員長】
- (一同異議なし)

第3章 柱2 (循環型)

- p28) 海岸「愛護」とあるが、好きなだけでなく一歩進んで守っていくのであれば、「保全」とした方がよいのではないか。【伊澤委員】
- ここは出典での使い分けがあるのではないか。海岸保全というとハード面の対策のイメージで、汚れないようにごみを拾いましょうといった時には、愛護という言葉を使っていると思う。【浅野委員長】
- 国土交通省が毎年7月を海岸愛護月間と位置付け、全国で海岸愛護活動を展開しており、土木の分野ではよく使われている言葉である。【事務局】
- この分野でよく使われている言葉ということで了解した。【伊澤委員】
- p28) ごみのポイ捨てが書かれたことで、取組の意義が分かりやすくなった。【岩熊委員】
- p38) 一般廃棄物最終処分量の2018と2019年度が同じ数値になっているが正しいか確認されたい。また、コロナ影響で家庭ごみの量は増えていないのかお聞きしたい。【佐藤委員】
- 1点目は確認する(※会議後に事務局にて表記が正しいことを確認済み)。2点目については昨年度の一般廃棄物の量を市町村に照会した結果、宅配等の増加により家庭

系一般廃棄物は増えた一方、事業系一般廃棄物は減っており、総量は変わらなかった。
【廃棄物対策課長】

- p31、p33) SDGs 図が他のページに比べ不鮮明なので、完成版では差し替えた方がよい。【佐藤委員】
- p28) ポイ捨てに関する記載について、河川を経由した流れ込みや現地でのポイ捨てとなっているが、現地が何を指すのか分かりにくいし、行為の順番からすると、ポイ捨てのあとで河川を経由した流れ込みではないか。ポイ捨てを止めてという主旨が伝わるような文章にした方がよい。【伊藤委員】
- 御指摘のとおり、「ポイ捨て等が河川を経由して流れ込んだり～」のように主旨が伝わるように順番を修正すること。【浅野委員長】
- p38) 産業廃棄物の指標について「1%増以内」は違和感がある。目標は「現状維持」等の表現にして、数値を 520 千トン±5 千トンなどと表記できないか。【伊藤委員】
- 1%増以内は、経済活動を考慮したものと思うが、事務局の考えは。【浅野委員長】
- この目標値は昨年度策定した廃棄物処理計画をそのまま記載している。【廃棄物対策課長】
- それならば原案どおりで了解した。【伊藤委員】

第3章 柱3（自然共生）

- 42p) ワンヘルスのイラスト中の「柱」とビジョンの柱が重複して紛らわしいのではないか。【伊澤委員】
- p43) プラットフォームの作成は非常によい取組だと思う。指標項目としては、その利用度を入れてはどうかと提案する。【伊澤委員】
- p43) 「生態系に影響を与える野生動物の」とあるが、野生動物も生態系の一部である上、影響というと、悪い影響を指すイメージがある。ここは「生態系における野生動物の」ではないか。【伊澤委員】
- p46) 上と関連して、重点プロジェクトのページでは、ノウサギ、アナグマ等と書かれているが、これらはシカのように増えすぎている訳ではなく、里山を構成する野生動物の一部である。このような一般的な野生動物に対し「影響」を用いるのは適当でない。【伊澤委員】
- 森林におけるシカの影響は既存事業で調査しているが、里地里山の野生動物については知見がない。ノウサギ、アナグマを例示しているが、イノシシ、テン等も含め、生息する種や、それらの行動が希少種に与える影響を調査する。【自然環境課長】
- それは「影響」ではないと思う。里地里山の生息状況の調査は大事だが、森林で増えすぎているシカの調査方法を、里地里山に当てはめるのは適当でない。生態系の在来種で特に増えすぎているわけではないものについて希少種に与える影響というのは、それを調べてどうするのかということがわからない。【伊澤委員】
- シカやイノシシは農地との関係で頭数削減もしている。これとは別に、里地里山における野生動物の生息状況を把握したいということ。どう表現したらよいか。【浅野

委員長】

- 影響という言葉は止め、（重点プロジェクトのタイトルは）「里地里山における野生動物の生息状況調査」とする。内容も、まずは現状把握、問題があればその次のステップという書きぶりにするとよい。【伊澤委員】
- p46の最後のパラグラフ「柵を設け」の表現はいかがか。【浅野委員長】
- 柵を設けるよりは、手を加えずにセンサーカメラなどで生息状況を調査する方が目的にかなう。【伊澤委員】
- 希少種の周りに柵を設けて違いを見ることで、希少種への影響を調べようとする施策である。【自然環境課長】
- ここで言っている希少種というのは植物に限定されている。影響という表現が誤解を招く。ノウサギ、アナグマ等を削除したら施策として問題はあるか。【浅野委員長】
- 有害鳥獣として頭数管理されているイノシシのように、ノウサギ、アナグマ等を管理・防除するものではなく、まずは何が生息しているのか把握することが施策の主眼である。【自然環境課長】
- それでは「ノウサギ、アナグマ等」を削除する。しいて書くなら「有害鳥獣以外の」と書く方がよい【伊澤委員】
- p46についてまとめると、影響という言葉は止め「生態系がどのような状況なのか把握する」等、主旨が変わらない範囲で表現を検討すること。また、ノウサギ、アナグマ等の種名は書かない。なお、一番下のパラグラフ「柵を設け」の表記はそのままとする。【浅野委員長】
- 柱3の指標についても、環境審議会に示す案は、委員長に一任いただきたい。【浅野委員長】

第3章 柱4（生活環境）

- 柱1で意見があった「交通円滑化」の表現は検討すること。【浅野委員長】

第3章 柱5（国際環境協力）

- ここは「本県が行うこと」が書かれているのであって、「県内で行われている」という意味ではない。市町村や大学が行っていることは書かれていないが、データがとれないので仕方がないかと思う。したがって、66ページには「本県が行う」と追記した方がよいかもしれない。【浅野委員長】
- アジア自治体間協力事業の委員も務めているが、コロナの影響により、国際協力をこれまでと同じ形・同じペースで積み上げていくことは難しく、県の努力ではどうしようもない。この状況は今後数年続くと思うので、オンラインも含めて同じペースで積み上げていくということを一言書かれてはいかがか。【伊藤委員】
- 御指摘のとおり、来日又は現地訪問での協力事業は難しい状況であり、当面はオンラインでの実施も含めたところで、これまでと同じペースを維持したいと考えている。【環境政策課長】
- 手法（オンラインによる実施）について、重点プロジェクトのページでもよいので、

記載するとよい。【浅野委員長】

- 柱4のところで言い逃したが、自然資本を指標に入れてほしいという意見である。九州大学ではアジア・オセアニア研究教育機構を創り、エネルギーや自然関係のイベントを行っているので、p63で紹介していただければと思う。これは連携の問題だが、大学の活動が知られていない。【馬奈木委員】
- 「大学との連携もさらに強化する」ことも記載することとする。大学・研究機関との連携、自治体との連携、企業との連携等を入れておけば、県内の状況を反映できると思う。【浅野委員長】
- 九州大学で活動されている国際環境関連のイベントは、事務局でも認識がなかったので、取組の内容やお尋ね先を教えていただければありがたい。大学との連携についても、他にも先生に協力いただいている例があるので、紹介できるよう調整したい。【事務局】

第3章 柱6（グリーン化）

- p75) 指標については研究開発の件数でなく、1件でもインパクトがあれば目標達成と評価する考えもあるのではないか。【伊藤委員】
- 研究開発だけがグリーン化ではないという点が一番の不満である。また、各研究機関は機関評価を受けているのだから、研究開発件数が環境総合基本計画の指標にふさわしいのだろうかという疑問もある。ただし、グリーン化の指標は、国の計画でもなかなかなく、設定が難しいところではある。【浅野委員長】
- 実用化を評価するなら、マーケット規模があるが、実用化までは時間がかかることもあって指標とすることは難しい。この先も研究開発件数を指標とするかについては、事務局で考えてほしい。【伊藤委員】
- 例えば p71 に融資制度が載っているように、中小企業の環境配慮に対する県の補助制度があるので、その実績から何か指標にならないか。中小企業が元気になるような県の施策はあるはずだし、これからもしていくことである。本文に書いてあることを拾って数値化できるものがないか、引き続き検討すること。【浅野委員長】

第3章 柱7（地域・人）

- p80) 実施予定の学校表彰について、各学校で取り組んでいる環境教育は、市町村でも把握できていないが、どうやって把握するのか。【岩熊委員】
- 施策のアイデアを出した段階であり、具体の方法についてはあらためて検討する。【環境保全課長】
- 福岡市の環境行動賞でも、候補を募っても学校から声を上げにくい状況はある。把握が難しいのは御指摘のとおり。なお、施策のアイデアは悪くない。【浅野委員長】
- p88) 福岡県のエコクラブの登録団体数は多いが、活動していない団体も多い。登録数を数えるだけでなく、実働をどう拾い上げていくかは考えないといけない。【岩熊委員】
- 実働の把握や支援についても考えないといけないという御指摘である。事務局は計画の実行段階で考えること。【浅野委員長】

素案全体について

- 環境審議会に報告する案については、他計画との関係でまだ示せていない部分もあるが、11月の環境審議会に示す答申案については、委員長に一任いただいてよいか。
- (一同異議なし)

(3) 各柱の副題(仮案)について

- (事務局から当日資料を用いて、各柱に分かりやすい副題を設けることについて説明)

(委員質問・意見)

- 柱3のワンヘルスが難しい。言い換えるなら「生物多様性の保全と利用」か。ワンヘルスは、柱2、4、6、7にも関わるので、副題にワンヘルスという言葉を入れなくてもよい。【伊澤委員】
- 以前、生物多様性に関して「いのちつながる～」というよいフレーズがあった。ワンヘルスにこだわると難しい。【浅野委員長】
- 柱6の経済・社会のグリーン化は大事なキーワードで、国の環境基本計画でも一番に出てくる。県計画の中身が貧弱なので、副題(仮案)はグリーン購入とか環境負荷低減産業育成となっているが、もっと大きなダイナミックな話であり、それがうまく言い表せないか。【浅野委員長】
- イノベーションという言葉は、国ではよく使うが、県単位では使わなくてもよいと思う。国は大きなR&D(研究開発)を大企業も含めて行い、イノベーションを進めている。一方、自治体は地域内で施策を行うが、大学や企業は地域内に限って活動する訳ではない。(目指す姿は)「経済・社会のグリーン化」で十分である。グリーン化するということは、政策もそれに対応するので、自動的にグリーンイノベーションも進む。【馬奈木委員】
- グリーンイノベーションをあえて出さずに、副題に移動するといいかもしれない。また、イノベーションというと技術だけと考えがちだが、国の環境基本計画では、経済社会システム、ライフスタイルのイノベーションも柱として挙げている。【浅野委員長】
- おっしゃるとおり、メインタイトルを「経済・社会のグリーン化」、副題を「グリーンイノベーションの推進」がよい。技術のイノベーションだけととられてしまうので、社会のイノベーションといった説明がある方がよい。【馬奈木委員】
- 現段階では、柱6の主題を「経済・社会のグリーン化」として、副題を「社会と人の行動(ライフスタイル)のイノベーション」等とする。国が作っている経済計画なども調べてまた考えることとする。【浅野委員長】

以上